

2026 年度(令和 8 年度)

事業計画書



公益財団法人キープ協会

目次

2026 年度 事業計画の方針・重点項目	3
.....	
公益Ⅰ. 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業	4
1. 環境教育	
2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」 指定管理業務	
3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務への貢献	
4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
5. 環境研究所	
6. 地域における環境教育事業	
7. 専門スタッフの育成	
公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業	6
1. 生産農場	
2. 教育農場	
3. 食育	
公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を 提供する事業	7
1. 清泉寮	
2. 自然学校・キャンプ場	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業	9
1. 国際交流事業	
2. 地域連携事業	
公益Ⅴ. 幼児の育成と子育てに関する事業	10
1. 地域のニーズに合わせた子育て支援	
2. 保育の質の向上	
3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
4. 自然のリズムを大切にした食事の推進	
5. 園舎内及び周辺環境整備	
6. 研修実施・視察受け入れ等を通じた人材育成	
7. 他事業との連携	
8. 保護者や地域の方々との協働	
9. 卒園児のバックアップ	

収益Ⅰ. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等	11
1. 重点業務	
2. 通常業務	
収益Ⅱ. 宿泊設備を使ったホテル事業	12
1. 清泉寮	
.....	
本部（管理部門）	13
1. 総務	
2. 経理	
3. 施設	
4. 企画	
5. 営業	
.....	

2026 年度 事業計画の方針・重点項目

キープ協会の従来からの取組みを改めて SDGs の視点で整理すると、まさに SDGs そのものである。全事業を支える自然環境を守ることで清里地域の観光事業や生活文化を持続可能なものにし、各事業が本業を改善し成長させることで、地域や世界の課題に向け持続可能な社会の実現へ貢献する。

■公益事業重点項目

1. 教育機能の強化：

教育研修、環境教育、保育等を通じ、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出する。

2. 農場機能の強化：

動物福祉に則った飼養管理、システム・機器の活用による高水準での繁殖管理に取り組む。

粗飼料の完全自給を目指し、圃場整備の推進と鹿の食害を防ぐための環境整備に尽力する。

酪農教育ファームの認証を取得し、教育および学習の場として幅広い層の受け入れを行う。

3. 保育事業の強化

幼児の育成と子育てに関する事業活動をさらに活性化する諸施策を実施する。

4. 地域社会への貢献：

研修交流、農場、保育園等の各事業及び地域との連携を通じて地域経済・文化・社会の持続可能かつ健全な発展に貢献する。

5. 人材育成支援：

環境教育、保育園、研修交流等の各事業を支えるスタッフの育成及び専門的なスキルアップを目指す人材への支援を強化する。

【収益事業重点項目】

公益財団法人としての活動を支える収益事業体制の見直し・強化
安定的にキャッシュフローを確保できる経営基盤の確立

1. トップライン増強：

客室稼働率の向上、宿泊料金適正化、新商品開発、地域事業者との連携強化等に取り組む。

2. 利益率の改善：

付加価値向上やコスト転嫁による販売価格引上げに取り組む。適正な経費の支出およびキャッシュフロー重視の収益管理を徹底する。

3. 行動計画への取組み強化：

策定した行動計画の着実な実行と正確な振り返りにより PDCA サイクルの定着化を図る。

収益向上策の中心として取り組んでいく。

4. 各部署での業務運営体制見直し：

業務フローの見直し、データの整備・活用、人員の適正配置、他部署との連携強化に取り組む。

5. 人材育成強化：

外部人材の登用、職員教育、研修の実施により、各スタッフのスキルアップを図るとともに、人事制度の見直し等、職員が働きやすい環境作りに取り組む。

公益 I . 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業

1. 環境教育

環境教育研究と地域の自然情報・ヤマネの総合的な研究蓄積を基盤に、市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働による環境教育事業及び環境保全事業を、清里及びその周辺地域・国内各地・国外で広く展開し、持続可能な社会実現に寄与する。

(1) キープ・フォレスターズ・スクール

① 役割

ESD・総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供及び研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

② 重点目標

- ・新規ニーズの開拓
- ・全国各地でのアウトリーチ活動の充実
- ・森の多面的活用（企業研修、リトリート、森のようちえん等）
- ・自然×文化・歴史・暮らしのインタープリテーション

③ 主催事業

「実験」「協働」をキーワードにした魅力的なプログラムの開発・実施

④ 受託事業

全国各地での自然体験型環境教育プログラム、人材育成事業、教材開発、SDGs 事業、CSR 事業、講演、執筆等

⑤ 指導教育・人材育成

全国各地での職員教育・スキルアップ支援、環境教育の専門家を目指す研修生・インターン生の受入れ、指導者育成研修、研究者への支援・フィールド提供

(2) 清泉寮やまねミュージアム

① 役割

ヤマネの総合的な研究への協力・情報の蓄積、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、森林生物多様性保全の提案への協力、環境教育・環境保全策の普及啓発

② 重点目標

これまでの研究成果の教育への展開、プログラム化と地域への普及。研究を活かした教育事業の館内展示等で発信と情報蓄積。論文発表・学会発表・シンポジウムへの協力・アート等異なる視点からのヤマネの暮らす森の環境保全への試み。

③ 事業計画

国内外での総合的なヤマネ研究・保護及び生物多様性研究の推進への協力、アニマルパスウェイの国内外の開発と普及への協力、国内外の研究者との連携・情報交換・共同研究、研究成果を活かした展示や環境教育プログラムの開発・実施、「やまねミュージアム」の管理運営、ヤマネ関連グッズの開発・販売、老朽化する建物の維持・管理・補修、ボランティアとの連携、全国各地での出張展示等

2. 「～ハヶ岳環境と文化のむら～山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンター」指定管理業務

第5期4年目の指定管理業務を担当する。山梨県及びハヶ岳エリアにおける環境教育のハブ施設（ネットワークの中心施設）を目指し、施設の維持管理や事業の企画運営を行う。

(1) 役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供し、山梨県の良い環境の保全と継承に資する。

(2) 事業内容

- ①施設の維持管理にかかる業務（日常及び定期的な施設の保守点検、補修、清掃等）
- ②基本方針並びに事業計画等に基づいた主催事業（館内展示、自然体験プログラム、企画事業等）の実施
- ③施設運営にかかる業務（利用促進、ボランティアとの協働、県内類似施設等との連携等）
- ④利用者の満足度調査の実施及び業務改善
- ⑤業務計画書・事業報告書等の作成及び提出
- ⑥自主事業（環境教育関連書籍やグッズの販売等）の実施

3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務への貢献

12年間にわたる運営管理業務の蓄積が、環境省により進化発展していけるよう、必要な協力を
行う。また、次期の運営管理指定取得を目指す。

4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

12年度目（1期5年3期目の2年目）の地球温暖化防止活動推進センター業務を行う。

- (1)地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動
- (2)地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の活動
支援
- (3)日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言
- (4)日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析への協力
- (5)定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供

5. 環境研究所

環境教育事業部の機能の1つとして、事業部横断的に研究活動を行う。

- (1)環境保全研究（自然共生・ネイチャーポジティブの実践・清泉寮学びの森等）
- (2)環境教育研究
森林保全作業を通じた環境教育の研究及び実践、環境教育実践の整理・研究・発表、
指導教育に関する研究

6. 地域における環境教育事業

地域との協働を通じた環境教育事業に取り組む。

(1) 事業内容

地域の教育機関・福祉機関等への協力、やまなし環境教育ミーティングの開催、
森の楽童など地域住民への環境教育、地域内各種ネットワークへの参画
北杜市内小学生の清泉寮やまねミュージアム入館無料対応

7. 専門スタッフの育成

環境教育の専門家を目指す人材へのスキルアップ支援及びフィールド提供等を行う。

公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業

～ 地域農業の活性化 ～

1. 生産農場

- (1) 標高 1,250m～1,400m の高冷地、傾斜地における安定的な生乳生産を行う。飼育頭数 100～110 頭（内訳：成牛 60 頭、育成牛 20 頭、仔牛 10 頭、雄仔牛 20 頭）とし、搾乳頭数は年間平均 50 頭、総生産量は年間 165,000 kg（内 5,000 kg は哺乳用）を目指す。
- (2) NON-GMO 且つ無農薬の安心安全にこだわった有機 JAS 牛乳生産への継続的な取り組みを行う。
- (3) 粗飼料の完全自給を目指し、圃場（採草地 27.8 ha、放牧地 21.4 ha）整備の推進と共に、生産性の向上、鹿による食害を防ぐための環境整備（電気柵の整備等）に尽力する。
- (4) 牧草地に計画的な堆肥や尿等の散布を行い、循環型酪農を推進する。
- (5) 山梨県畜産課、山梨県家畜保健衛生所、NOSAI 山梨家畜診療所と協力し、家畜衛生管理を徹底する。
- (6) 山梨県の補助金によって試験導入しているカウスカウト（牛群管理システム）及びエコー（超音波診断機）の活用により高いレベルでの繁殖管理による乳量の向上と後継牛の確保を行う。
- (7) 環境負荷軽減型酪農経営支援事業助成金を活用し、酪農に起因する環境負荷の軽減を図る。
- (8) 「やまなしアニマルウェア認証制度」認定牧場として動物福祉に則った飼養管理に取り組む。
- (9) 付加価値の高い A2 ミルクの生産を計画的に推し進めていく。
- (10) ファームショップ前放牧地にて通年で牛を放牧、且つエサやり体験を実施することで、いつでも誰でもジャージー牛と触れ合える体験を提供する。

2. 教育農場

- (1) 酪農教育ファームの認証を取得し、教育及び学習の場として徹底した衛生管理のもとに農場を開放する。農場を囲む豊かな環境や資源を活用して、子供から大学等の研修生まで幅広く受け入れを行う。
- (2) 他事業との連携強化により、一般来訪者から学校団体までを対象とした日帰り型・宿泊型の牧場体験プログラムを充実させる。
- (3) ジャージー牛ファンクラブを通して施設見学や牧場体験プログラム等を多くの方々に広く提供し、「高冷地酪農」、「循環型酪農」、「ジャージー牛」、「有機 JAS 認定牛乳」、「アニマルウェルフェア」についての理解醸成を図る。

3. 食育

- (1) 「食育」の一環として、清泉寮有機 JAS ジャージー牛乳の普及及び関連乳製品の開発、普及促進を図る。
- (2) 「循環型酪農」の一環として雄仔牛、交雑種の肥育による牛肉生産を行い、協会内の売店やレストラン等に食材として提供する。
- (3) 牛乳が出なくなった引退牛を肥育し、オーガニックジャージービーフとして認知を高め、エシカルな消費を促進する。
- (4) レストランから廃棄される食品残渣を肥育牛の飼料として活用し、食品ロス削減を推進する。

公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を提供する事業

～ 地域のランドマークとして地域活性化に貢献 ～

1. 清泉寮

研修宿泊施設、公益財団法人キープ協会の中核施設、地域のランドマークとしての役割を果たす。

- (1) 利用者及び職員にとって安全安心を心がけ、かつ消費エネルギーの削減など環境にも配慮した施設運営
- (2) 教育旅行を中心に、研修等の各種団体の宿泊研修利用の受け入れ
- (3) 手作り地域産の良質な旬の食材にこだわった、安全安心で美味しい食の提供
- (4) キープ協会が手掛ける良質な体験プログラムを利用者に提供するための他部署との連携
- (5) 地域に開かれたイベント等の開催と適切な運営

2. 自然学校・キャンプ場

通年営業の清泉寮自然学校、夏季(7月～9月)営業の清泉寮キャンプ場の2つの宿泊施設を清泉寮と連携しながら運営する。

- (1) 受託事業
 - ① 幼稚園・保育園から大学・各種学校まで、幅広い教育旅行団体・一般団体の受け入れ
 - ② 特別支援学校の積極的な受け入れ
- (2) 主催事業
 - ① 幼児や子ども、家族を対象としたキャンプを通年で企画実施
 - ② 対象者を拡大した新たなキャンプの企画
- (3) プログラムの提供
 - ① 豊かな自然環境を活かした環境教育プログラムの提供
 - ② 農場体験プログラムの展開
 - ③ 地産地消や手作りにこだわった健康的な食事と食育プログラムの提供

3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の根幹であるポール・ラッシュ博士の業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、キープ協会の広報・渉外・教育機能の一端も担う。

- (1) 博物館業務
ポール・ラッシュ博士の業績や歴史を紹介する通常の開館業務、資料のデジタルアーカイブ化作業の継続、収蔵資料や美術品の保存・管理業務、歴史的建造物「ポール・ラッシュ邸」の修繕・保護・活用、コロナ対策の中で展開された新たなミュージアム活動の継続
- (2) 企画展
時期ごとに変化のある企画展(年数回)、特別企画展の開催
- (3) 日本アメリカンフットボールの殿堂
日本アメリカンフットボール協会からの委託業務を殿堂委員と協働。来館者にアメリカンフットボールに触れる機会の提供、競技の普及活動。全日本選手権大会「ライスボウル」への協力
- (4) 広報活動
県・市や対外的な機関との連携、メディアやSNSを駆使し積極的に展開

(5) 教育普及活動

文化庁の研修を修了したミュージアムエドゥケーターが独自プログラムを実施するほか、他事業とも連携し歴史・文化のプログラムを行う。

(6) 他事業との連携

- ①公益Ⅲ 清泉寮・自然学校利用者の入館無料
- ②公益Ⅳ-1 (1) (3)について協働
- ③公益Ⅳ-2 (2)⑥と連携し、地域の芸術活動を支援・振興
- ④本部と連携し、人材育成のための研修・勉強会を企画・実施

(7) 地域貢献

- ①地域の博物館・美術館等との連携を継続
- ②良質な文化を届けることを目的に、他事業と連携し、茶会・音楽会などを開催
- ③北杜市内の小中学生の入館無料対応、市内学校への出張授業
- ④障がい者の方と地域をつなぐことを目的に、障がい者アートを支援・普及

(8) 外部連携・受託事業

- ①学校・ミュージアム等の教育・研究機関、企業等に展示、講演、執筆等を行う
- ②立教大学全学共通カリキュラムへの講師派遣
- ③日本聖公会横浜教区歴史編纂協力
- ④日本アメリカンフットボール協会へ歴史検証協力

(9) 教育支援

立教大学でボランティア活動を行う学生を対象に、ポール・ラッシュ博士記念奨学金を給付

公益 IV. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業

～ 新型コロナで中断された事業の再開に向けて ～

1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じた青少年育成及び地域貢献を目指す。地域の学校や国内外の大学・NGO 等の多様なコミュニティと連携し、事業内容の充実と発展に取り組む。

(1) 国内外のインターン生の受入れ

国内外の青年を受け入れ、学びと実践の機会を提供し、ポール・ラッシュの理念の継承を図る。

(2) 地域への国際理解プログラムの実施(通年)

地域の青少年育成と地域社会への貢献を図るため、環境教育、国際理解・英語教育等の分野で事業協力を行う。

①地域での主催英語教育プログラムの提供

国際交流をキーワードに、地域の子どもから大人へ独自の英語教育プログラムを提供する。

②地域の学校への協力

北杜市立甲陵高校等の地域の学校へ、文部科学省主管のスーパーサイエンスハイスクール事業等の「英語」・「国際理解」のためのプログラムを実施し、青年の育成及び地域貢献を図る。また、公益Ⅰで行う環境教育事業と連携し、さらなる教育効果の向上を図る。

(3) 国際関連団体等への協力

インターナショナルスクール、JICA 等の団体を積極的に受け入れ、活動の場を提供する。

(4) 国際交流団体・公的機関との連携(通年)

山梨県国際交流協会、国際交流北杜地域連絡協議会等の諸団体との連携を図る。

～ 地域社会の健全な発展に貢献 ～

2. 地域連携事業

(1) ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2026 の開催

ポール・ラッシュ精神の顕彰と草の根国際交流の実践を広くアピールし、八ヶ岳に暮らす人々と八ヶ岳を愛する人々の結びつきを強めるため、北杜市をはじめ地域団体との協力のもと、ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～を開催する。

(2) 地域連携業務

①貧困な環境に置かれた子供たちを支援する団体への協力

②NPO 法人清里観光振興会に理事として関わり、組織運営に積極的に参画

③北杜市と連携し地域活性化に参画

④八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等の地域各種団体・組織と連携し、歴史・文化・観光等の側面から地域連携を推進

⑤八ヶ岳音楽祭をはじめ、地域の音楽活動に発表の場を提供するとともに、活動を支援

⑥公益Ⅰ-2 および公益Ⅲ-3 と連携し写真展・絵画展等の発表の場を提供するとともに、地域の芸術活動を支援

⑦地域団体と連携して美化・清掃活動を行う

⑧地元青年団、消防団、行政区、神社、警察関連機関等への支援

公益 V. 幼児の育成と子育てに関する事業

～ 育児・子育て支援を通じた「地域社会の健全な発展」に貢献 ～

～ 幼児の育成 ～ 幼児の主体性を大切に・豊かな感性を育む

「一人ひとり子どもたちを祝福する保育」を保育目標に掲げ、「森の保育園」のコンセプトのもと、地域資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動に取り組む。また、地域に開かれたコミュニティセンターとして、地域における教育や子育てに関わる事業に積極的に取り組み、地域社会の持続可能な発展に貢献する。

1. 地域のニーズに合わせた子育て支援

認定こども園と事業所内保育所の2園を活用し、地域の多様なニーズに対応する。また、行政と協力して引き続き保護者のための子育て支援を行う。

2. 保育の質の向上

- (1) キリスト教保育
- (2) 森の保育
- (3) 野外活動におけるリスクマネジメント
- (4) 各部門における理解

3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

- (1) 異年齢児グループと年齢別グループの良さを組み合わせた活動や生活の充実
- (2) 森の保育活動の実践を充実させ、森の保育のカリキュラム作りに取り組む。

4. 自然のリズムを大切にした食事の推進

- (1) 生産者とのつながりを大切に、自然のリズムに配慮した食事や食育に取り組む。
- (2) アレルギー対応食の提供や、「食」の体験活動にも積極的に取り組む。

5. 園舎内及び周辺環境整備

- (1) 園舎内及び周辺環境整備→暮らしを豊かにする長期的ビジョンの下に計画的に進める。
- (2) 「森庭」の整備を重点的に進める。

6. 研修実施・視察受け入れ等を通じた人材育成

- (1) 園内研修実施と園外研修への参加を進める。
- (2) 自然学校や清泉寮等と連携して、各種保育団体や学校等の視察・研修等を受け入れる。
- (3) 研究者との連携やフィールド提供を通して、広く幼児教育・保育に関わる人材育成に貢献する。

7. 他事業との連携

- (1) 自然学校や環境教育事業部と、フィールドの使用・整備等で協働する。

8. 保護者や地域の方々との協働

- (1) 「大屋根マルシェ」「文庫活動」「未入園児の子育て支援」等地域の子育て支援
- (2) 幼児教育の向上を目的とする活動に対して園舎を提供し、保護者や地域の方々と共に創り実践を重ねる。
- (3) 地域主催の「森の楽童」に対して、フィールドにおける協力等を行う。

9. 卒園児のバックアップ

- (1) 次世代の青少年育成支援のため、保護者主催の「卒園児キャンプ」への協力を行う。

収益 I. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等

公益財団法人キープ協会が行う公益事業の経済的基盤を支えるため、自家製品や地域特産品の販売等を中心とした様々な事業により、収益の確保を図る。

1. 重点業務

(1) 商品開発

- ① ジャージー乳製品及びジャージー牛乳を使用した清泉寮ならではの製品
- ② 安心素材や地域農産物を使用した付加価値の高い製品
- ③ オリジナルキャラクターを使用した雑貨類及び各種土産品の商品展開

(2) 通信販売の利用促進

- ① インターネット販売に適した商品開発
- ② ふるさと納税返礼品の拡充

(3) 効果的な宣伝広報

- ① インターネットを活用した情報発信
- ② SNS を活用した旬な情報発信

(4) 適正価格の見直し

- ① 原価に見合った価格設定
- ② 商品価値に見合った価格設定

(5) 店舗周辺を中心とした景観改善

- ① 高冷地ならではのガーデン整備
- ② 来訪者の記憶に残る景観づくり
- ③ 高原らしい景観を維持するための環境整備
- ④ 自然との調和を考えた緑化推進

(6) お客様から共感を得るための職員教育

- ① キープ協会の一員としての意識向上
- ② 接客・サービス研修
- ③ あらゆる商品知識の習得

2. 通常業務

- (1) 店舗運営（清泉寮ギフトショップ、清泉寮ジャージーハット、清泉寮ファームショップ、ANNE OF KIYOSATO、清泉寮新館売店）
- (2) 通信販売及びインターネット販売
- (3) 清泉寮ソフトクリーム及びジャージー乳製品の出張販売
- (4) 地域生産品及びフェアトレード製品などの公益性のある製品の積極的な利用と販売
- (5) 「人と地球の健康」をキーワードとした観光地での安心出来る食の提供
- (6) 集客を図る効果的な宣伝広報
- (7) ホームページを利用した情報発信
- (8) 購買の一元化による効率的な仕入・在庫管理
- (9) 業務の効率化によるコスト削減
- (10) 各店舗間における職員・スタッフの柔軟なシフトによる人事の効率化
- (11) 各種機械化による業務効率化

収益Ⅱ．宿泊設備を使ったホテル事業

1. 清泉寮

公益財団法人キープ協会の公益事業を支える収益力を向上させる。

- (1) 客室稼働率の向上
- (2) 適正な宿泊料金へ見直し
- (3) ホテルシステムとの連携等、DXに向けたオペレーションの効率化、各種データの集積と活用
- (4) アンケート等顧客からの意見を反映した、顧客から支持される施設運営とサービスの改善
- (5) WEB・SNS・メールマガジン・印刷物等の活用、新規顧客やリピーター獲得に繋がる情報発信
- (6) イベント・ミーティング・ブライダルなどの新たな形への対応
- (7) 宿泊者専用レストランのビュッフェ、フルコーススタイル等こだわりと魅力ある食事の提供
- (8) ゲストのニーズに合わせた宿泊プランの企画・販売
- (9) 営業力の強化

本部(管理部門)

公益財団法人の管理部門として、総務・経理・施設・企画・営業の各部を置く。

1. 総務

(1) 法人の運営全般（理事会・評議員会の運営管理含む）

(2) 関係団体との窓口

各団体との関係維持・強化、地域連携の推進

(3) 職員の採用・管理、研修、福利厚生等

採用計画・管理体制の整備、研修カリキュラムの策定

(4) DX 推進

Microsoft Teams の活用推進、人事労務・給与システムの更新

2. 経理

(1) 法人の財務・収益管理

3. 施設

(1) 法人の施設・設備・敷地の維持、管理、修繕、施設更新計画の検討

4. 企画

(1) 広報

① 清泉寮・キープ協会の WEB 管理

② 商品・プログラム・景観等の画像・動画撮影による素材収集と配信

③ SNS を活用した情報発信（Facebook、Instagram、X、YouTube）

④ HP や SNS のアナリティクスデータ収集・分析と活用

⑤ プレスリリース配信管理

⑥ メディア取材対応

(2) プロジェクト

① 清泉寮ジャージー牛ファンクラブの運営管理

② 法人の支援組織（フレンズ・オブ・キープ、キープ日本後援会）の運営管理

③ 寄付金の受け入れ

④ 取引先向けギフトの販売促進

⑤ 法人主催のイベントに関する広報・事務サポート

5. 営業

キープ協会を利用する学校・団体等のお客様の満足度を高め、安全・安心なサービスを提供すると共に、公益事業の基盤となる団体等の集客に取り組む。

(1) 協会全体に係る団体情報の一元管理

(2) 旅行代理店、新規・既存利用団体の情報集約と利用促進

① 清泉寮・自然学校の宿泊団体

② レストラン日帰りランチ団体

③ 売店・ソフトクリーム利用の日帰りバスツアー

④ レストランを利用した各種パーティー（忘年会・新年会・謝恩会・婚礼等）